

マタイの福音書 第6章 28節

「なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。」

今晚には初雪が舞い降りると予報されている。日本海側、とくに東北地域では豪雪となっている。関東の空はどこまでも青く、冬季特有の澄みわたった青空が広がる。路肩に目を転じれば、腰丈まで伸びた枝のあちらこちらに木の芽が萌え出ている。芽のふくらみが春へと向かうエネルギーを秘めているかのようだ。寒風に立ち上がる春の兆しが淡いみどり色に見る。

木立は路端に根をはり、風を受け、いのちをその場、そのまま育んでいる。野のゆりも同じだ。野のゆりというのだから、野原に咲いている。愛でる者もない、人里から離れたゆりだろう。自然の息を受けながら野原で咲くゆりの花を見るゆとりさえなく、着物のことを心配する。心配する者に思いを注ぎゆりに目を向けさせる。

野に咲くゆりに目を注ぐばかりか、生かし育むお方が、自分で生きようと心配する者に語る。野の花がどうして育つのか、どのようにではなく、どうして、と問う。これをよくわきまえなさい。働く前に、紡ぐ前に、野に在る花を見よう、野で咲くゆりがどうして育っているのか。